

図書館新聞

27



活動記録
おすすめ本
卒業生インタビュー
編集後記

活動記録

ANNUAL ACTIVITIES

CONTENTS

本の貸出福袋

図書館祭

ビブリオバトル

境港市民図書館見学

商業高校交流会

図書館総合展

おはなしマラソン

紅白図書合戦

としょかんクイズ

石見銀山ライブラリー見学

3キャンパス交流会

選書

UNIVERSITY OF SHIMANE

Published by Student book committee,
Activity Editing team, *A. Iwasawa, K. Matsuda, H. Oga.* 2024

本の貸出福袋



まず、係のメンバーがそれぞれにテーマを決め、そのテーマに合う本を3冊選びました。そして、本の中身が分からないように袋に入れ、決めたテーマを福袋につけ、展示しました。30袋用意しましたが、約1週間で完売しました。

これらの活動を通して、大変だったことはメンバー全員からテーマを回収することでした。テーマ収集状況をこまめに確認し、連絡することを徹底しました。司書さんたちやメンバーの協力もあり、問題なく終えることができました。私自身も楽しみながら福袋を作ることができたので良かったです。

(生駒 美怜)

実施期間 (5/20 ~ 6/9)

ビブリオバトル

ビブリオバトルの運営を行いました。バトラーの方々や観戦者の方々に楽しんでもらえるように事前に話し合いをしたり、振り返りをするなど、しっかりと係のメンバーと協力して行う事が出来たと感じています。また、インスタグラムでのLIVE配信も行い、さらにILVEでの観戦が出来なかった人たちのためにアーカイブにも残しました。

今回のビブリオバトルは予選を3回行うという、例年より1回分多く開催することになりましたが、全員が一生懸命活動してくれたため、無事に終わることが出来ました。(松田 杏香)



(写真：本人)

実施期間 第1回 6/28、 第2回 9/21
第3回 10/18、 決戦 11/3

商業高校交流会



1 回目の交流会では松江商業高校生を大学に招きました。まず、図書館内を案内しました。次に6グループに分かれて本を使ったゲームを行い、ゲームで稼いだ得点分の輪投げを行いました。高校生も大学生もゲームの時から盛り上がり、楽しかったです。輪投げが終わり、冷えたジュースが景品でしたが、その意外性と冷たい缶の涼しさが心に残っています。

2 回目の交流会では我々が商業高校にお邪魔をしました。本を使い、著者名の最後の文字がマスになっているビンゴや、タイトルをつなげるしりとりを行いました。そして、思い思いにデコレーションをして葉を作成しました。2回目の交流ということもあり、緊張感もほぐれ和やかな雰囲気です、皆さんの笑い声がよく聞こえていたのを覚えています。(渡部 結等)

実施期間 第1回 7/4、第2回 12/15

おはなしマラソン

おはなしマラソンはおはなしレストランライブラリーの利用者さんが対象のイベントです。おはレスで好きな本を読んで、その本のポップを描いて、1枚ポップを描くごとに1つスタンプがもらえます。そのスタンプを10個集めるとメダルがもらえるというイベントです。

私たちは、そのイベントのためのポップの用紙やスタンプカード、ポスターなどを作るのが仕事になります。おはレスの司書さんにも協力していただき、みんなに楽しんでもらえる企画になりました。(嶋田 光紗)

実施期間 (7/15 ~ 9/3)





としょかんクイズ

昨年度に引き続き、おはレスで開催するクイズのイベントです。クイズ作成、しおりのデザイン、認定証のデザインの係で分担しました。クイズは、未就学児、小学校低・中・高学年の難易度別にしました。

また、今年度からはクイズに保護者・大人向けの難易度を追加しました。もっとおはレスを身近に感じてもらうことができればなと思っています。クイズに全問正解したら貰えるしおりは、6種類の中から選べる形です。認定証も各レベル全問正解と全レベルクリアで貰える認定証が違います。子どもたちへわかりやすく伝えるための言葉選びが難しかったです。（渡邊 知恵）

実施期間（12/23～2/25）

3 キャンパス学生図書委員交流会

大田市の石見銀山にある県立大学サテライトキャンパス「まちを楽しくするライブラリー」で松江・浜田・出雲3キャンパスの学生が集まり、交流を行いました。当日はアイスブレイクや、ライブラリーの見学、近くにある「まちライブラリー@きよさん文庫&吾鳥絵はるさん」の見学、各キャンパスの図書委員の活動報告、今後の図書委員会などについてグループディスカッションを行いました。



コロナもあり、4年ぶりに開催できた交流会でした。なかなか他キャンパスの方と交流をする機会がないので、他キャンパスの図書委員会の活動を知ることや、他キャンパスの方と知り合いになることができました。また、改めて図書委員会の活動について考えるととても良い機会になりました。（関 桃香）

実施日 8/22

図書館祭

☒ 図書館祭は、昨年のキラキラドリームプロジェクトの継続企画として行いました。

昨年は担当に参加することが叶わず、私にとって初めての図書館祭でしたが、準備で手間取ることがあり、迷惑をかけてしまいました。担当のみんなが頑張って準備してくれて助かりました。当日は、本当に多くの方が来館され、館内は大盛況でした。特に子供たちが楽しんでくれている姿を見ていると準備した甲斐があったと感じました。

とても充実した図書館祭になりました。ご来館くださった皆さん、ありがとうございました。（大賀 温斗）

実施日：10/8、10/9



境港市民図書館見学

2022年7月にリニューアルオープンした境港市民図書館に見学に行きました。出雲キャンパスの学生図書委員も参加し、事前に作成した冊子を手にも、メモを取ったり、クイズを解いたりしながら見学しました。



見学前に、館長さんのお話が聞けたこと、また学生図書委員OBの職員さんが見学に同行してくださったことで、見学ポイントが知れ、気になったことがすぐに質問出来、充実した見学となりました。利用者のための工夫やいろいろな取り組みをしておられ、たくさんの刺激を受けました。境港市民図書館のみなさん、ありがとうございました！（野々村 佳緒里）

実施日：9/26



図書館総合展

第25回図書館総合展がパシフィコ横浜で開催され、図書館祭の成果についてポスター展示をしました。「この規模のイベントができるのは凄い」「参考にします」等の感想をいただき、想像以上に大好評でとても嬉しかったです。

また、私たちの取り組みを知ってもらうだけではなく、全国の図書館関係者の方々と直接お話しが出来たからこそ、新しいアイデアや刺激を得ることが出来ました。とても貴重な経験が出来ました。

(岡野 凜)

開催日：10/24～25



石見銀山ライブラリー見学

県立大サテライトキャンパスの「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」に行きました。見学の後は、ボードゲームをしてくつろいだり、館内の見学や町並みの散策をして楽しみました。

この日はライブラリーの営業日で、観光の方や地域の方が、カフェやプールを利用されている姿も見られました。営業日はどなたでも利用できるので、ぜひ行ってみてください！（野津 恵）



実施日：9/28



紅白図書合戦

年末に学生図書委員会のメンバーが紅組と白組に分かれ、「今一番オススメしたい本」のPOPを書き、本と一緒に展示しました。そして、展示を見てくれた人に、勝ちだと思ふ組に投票をしてもらい、その票数を競いました。

今年度の結果は、紅組 127 票・白組 135 票で、白組の優勝でした。昨年よりもさらに多くの方に参加してもらうことができ、とても盛り上がりました。普段、図書館になかなか来ない人にも、足を運んでもらうきっかけになる企画だったと思います。（野津 恵）

実施期間：12月～1月



選書

年に2回、今井書店に出向き、図書館に入れたい本の選書をしました。

実施期間：5月、11月



図書館新聞

この図書館新聞は学生図書委員会の活動報告の記事や、係のメンバーのおすすめの本を紹介する記事を中心に毎年発行しています。今年度は例年と比べてはやい段階から準備を始め、スムーズに発行することができました。私自身新聞を作った経験がなく、スケジュール管理等至らない点が多々ありご迷惑をおかけしましたが、係のメンバーや司書の方の協力もあって無事にとっても魅力的な図書館新聞を作ることができたのではないのでしょうか。

表紙から記事、レイアウトまで図書館新聞の係全員が隔々にアイデアをつめこみました。お手にとってくださいました皆様が楽しんで読んでくださっていたら幸いです。(岩澤 有紗)



学生図書委員おすすめ本紹介

テーマ：新たな舞台に立つ人に読んでほしい本

『お探し物は図書室まで』 青山美智子著

新しい舞台に立つとき、分からないことや悩みは様々出てくると思います。そんなときは図書館に寄ってみませんか？何も目的がなくてもいいです。ふと手に取ったものが自分の期待するものであったり、落ち着くために図書館の雰囲気味わいに訪れたり、司書さんに相談したりと、図書館は皆に平等に存在します。

今回取り上げた本は、「お探し物は、本ですか?仕事ですか?人生ですか?悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押しします。」とあらすじに書かれているように、本と人・人と人・図書館という空間と人をつなげるような温かい、背中を押してくれるものとなっています。

5編のオムニバスの短編集となっていて読みやすいので、ぜひ読んでもらいたいです。(地域文化学科1年 澤樹里)



『陸王』 池井戸潤著

私がおすすめる本は「陸王」です。大人気作家池井戸潤作品で、ドラマも放送されたため、そちらをご覧になった方もいるかもしれません。100年の老舗足袋業者であるこはぜ屋の社長である宮沢紘一は、右肩下がりの会社業績に危機感を抱き、一大決心で新事業に打って出ます。その事業はランニングシューズの製造。その開発チームに、就職浪人中でやむなく家業を手伝っている実子の宮沢大地を配置し、生き残りをかけた戦いを開始します。

一見、企業経営を題材にした現代ドラマに見えますが、同時に、当初学生気分だった宮沢大地が社会人として苦悶・苦闘し成長する姿を描いた作品となっています。

これから就職をするなど新たな舞台に立つ人に読んでいただきたい作品です。(地域文化学科1年 和田莉奈)



『虚無レシピ』 リュウジ著

今まで受けてきた授業で一番覚えていることは、高校生の時に受けた倫理の授業で社会科の先生がおっしゃった、「お腹がすいているときに考え事をするな」ということです。

新しい舞台に立つ時は期待に胸をふくらませる一方で、悩むことも多いのではないのでしょうか。誰かに話すことができたり発散することができない時、一人で悶々と悩むこともあるのではないのでしょうか。

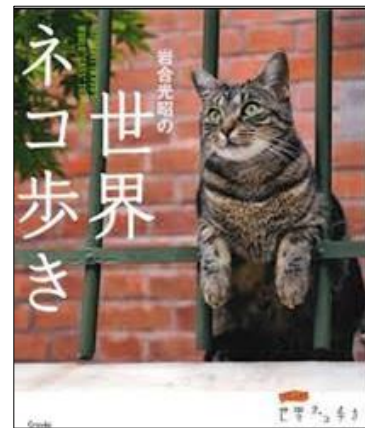
そんな時、寄り添ってくれるのがこの1冊であると考えます。材料と手間を最低限にしつつ、おいしいものを作ることができるレシピが多数紹介されています。例えば、パックご飯を温めて、バターやかつお節を乗せたものが「レシピ」として載っています。本当です。

悩むことも大事ですが、おいしいものを食べた後で悩みましょう。(地域文化学科2年 岩澤有紗)



『岩合光昭の世界ネコ歩き』 岩合光昭著

新たな舞台で活躍する人へおすすめしたい本があります。それがこの『岩合光昭の世界ネコ歩き』という写真集です。新しい環境では気疲れしたり、落ち込んだりする人も多いはず、だけどそんな時はネコの力を借りてみましょう。ネコは寒い場所、熱い場所、人の多い場所など様々な場所で生きています。どんな場所でもネコらしく、無邪気でのんびりしながら毎日を過ごしています。この写真集はそんな猫たちの表情や動きをよくとらえています。新たな舞台で活躍し始める人はこの本から猫の手を借りて、どんな環境でも自分らしくいられる力を手に入れませんか。猫たちがきっとあなたの背中を押してくれるはずです。(地域文化学科2年 和田沙耶花)



『おしまいのデート』 瀬尾まいこ著

この本には様々な関係性の2人が紡ぎだす「デート」の話が5つ描かれています。孫と祖父、元不良と教師、園児と保育士など、いわゆる「デート」から連想される関係性とは少し違うものの、彼らが「デート」を通してさらに距離を縮めていく様子は微笑ましく、人の温かさを感じられます。これから新しい舞台へと向かう前に、そばにいる大切な人と「デート」を試みたくなる、そんな本です。ぜひ読んでみてください。

(地域文化学科1年 丸山彩音)



『リラックマ いつもいます』 コンドウアキ著

どのページを開いても、ゆるいリラックマが。始めのページから読んでもよし、パッと開いたページを見るもよし。今一番ほしい言葉が書かれているかも知れません。

新しいことを始めることは、とても大変で楽しくて、でもくじけそうになる瞬間が来ると思います。「自分には出来ないのかも知れない」「自分は出来ない人なのかも」と、マイナスな考えになってしまうこともあると思います。そんなときはこの本を開いてみてください。開いたページの右側には言葉、左側にはリラックマ達が描かれています。偶然開いた見開き一ページは、きっと貴方に寄り添ってくれるでしょう。一冊あるだけで心がほっこり出来る、頑張ろうと思える、そんな一冊です。(地域文化学科2年 松田杏香)

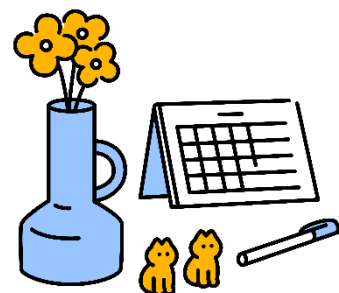


『まにまに』 西加奈子著

直木賞を受賞した『サラバ!』の作者である西加奈子さんのエッセイで、作者の感性や人柄が感じられて、読むと思わずくすくす笑ってしまう作品です。テンポがいいのですぐに読めちゃうと思います。「新たな舞台」で不安を感じた時、元気を出したい時や疲れた時、この本をぜひ手に取っていただきたいです。特に「失敗しても、いつかそれを肴に酒を飲もう」というエピソードがおすすめです。

「私はこれからも、ずっとこの体で生きてゆく。泣くだろうし、起こるだろうし、ふて腐れるだろうけど、それでも最後には口角をあげていたい。そのときどきの私として、口角をあげて、生きてゆきたい。まにまに。」(本文より)

(地域文化学科2年 梶谷夢羽)



『砂漠』 伊坂幸太郎著

私が新たな門出を迎える方に読んで欲しい本は、伊坂幸太郎さんの書いた「砂漠」です。

未だ見ぬ世界はまるで砂漠のように、道標なき道を進むものです。本に登場するのは、仙台市の大学に進学した「北村」とその取り巻きの4人。大学生活で巻き起こる数々の事件に、彼らの人生や価値観がゆっくりと変化していきます。皆さまも多くの出来事を大学で経験してきたと思います。彼らの巻き起こす物語は、少しリアリティにかけていながら、そこはかたなく懐かしさを感じるものです。そうして繋いだ物語の最後にはこのような一節があります。

大学時代は決して現実から目を逸らす場所ではありません。それは、どこまでもいけるといふ、根拠のない自信を思い出すためにあるのです。新たな門出を迎える方へ、皆様のご活躍を祈ってこの本をおすすめします。(地域文化学科2年 大賀温斗)



『幽落町おばけ駄菓子屋』 蒼月海里著

大学入学と同時に一人暮らしを始めることとなった彼方。有楽町の物件を紹介してくれると言った猫目に連れていかれた先は、豆腐小僧やろくろ首などのアヤカシが住む「幽落町」だった。彼方は、幽落町で出会った駄菓子屋の店主・水脈とともに死者の無念を晴らしていく短編集。

新しく行動を起こすための勇気ややる気を与える本ではありませんが、死者の無念とそれを晴らそうとする彼方たちの不思議で優しい、切なくも温かい物語です。お人好しの彼方と優しくお菓子に目がない水脈、自由で水脈が大好きな猫目など個性あるキャラクターも魅力です。動き出す前の緊張している際の息抜きや肩の力を抜きたいときにおすすめです。

(地域文化学科2年 新開優唯華)



～卒業する皆さんより～

岡野凛 〈地域文化学科4年〉

コロナ禍と共にスタートした私の大学生活は、この図書委員会があったおかげで、ここまで充実した楽しい時間になったのではないかと思います。

そのなかでも印象に深く残っているのは、特にこの時！という特定のイベントでの思い出よりも、学年・学科関係なく、図書委員のみんなとたくさん話せて交流が出来たという、活動全体を通しての思い出です。図書委員会に入っていなかったら、こんなに楽しくて優しい皆さんと出会えていなかったと思うと、この委員会に入って大正解だったなと思います。

こんなに恵まれた環境で、活発に活動できる図書委員会はなかなかありません。だからこそどれだけ忙しくても面倒くさくても、図書委員の活動に参加して損はないと思います。少なくとも私は、参加できて良かったと思う活動ばかりでした。

長いようであつという間の大学生活、全力で楽しんでください！またいつか、お会いできることを楽しみにしています。たくさんの思い出を、ありがとうございました！



福田倫世 〈地域文化学科4年〉

学生図書委員として活動した4年間、同学年・他学年の学生や図書館職員の皆さん、高校生など、たくさんの繋がりを得ることができました。図書委員会に入った当初の私が想像していたよりもはるかにアクティブで、人との交流・イベントごとが制限される中始まった大学生活も、気づけば多くの人と出会い、様々な経験をさせていただいていました。講義やサークルとの両立で目が回るほど忙しい時期もありましたが、それでも今では良い思い出です。

学生図書委員を通して知り合うことができた皆さん、たくさんサポートして下さった職員の皆さん、そして4年間一緒に活動してきた岡野さん、本当にお世話になりました。充実した日々でした。感謝！



吉本茜 〈地域文化学科4年〉

図書館は静かに本を読んだり勉強したりする場所だというイメージだったので、飛鳥祭でのお祭りや近隣高校の図書委員会との交流会などみんなでわいわいと楽しむ企画を学生図書委員会の活動を通して行い、私の中の図書館のイメージが大きく変わりました。私の友達からも「最近の図書館なんかわくわくすることをたくさんやってるから前より図書館に行くようになった。」と言っている人がたくさんいます。これからも活動頑張ってください！もっともっと素晴らしい企画をどんどん実行して行ってくださいね！陰ながら応援しています！皆さんにはお世話になりました。ありがとうございました！



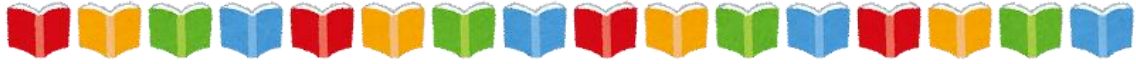
中島明洋 〈保育学科2年(短大部)〉

図書委員の活動を振り返ってみて、交流会のリーダーをやったことが印象に残っています。今までこういったリーダーを進んでやったことがなかったし、リーダー気質もなかったためあまりリーダーらしいことはできませんでした。でもそういった経験をする事ができたということは大きなメリットになったかなと思います。図書委員会はイベントもたくさんあって、参加する側でも運営する側でも楽しいし、いい経験にもなるので私は図書委員会に入ってよかったと思います。



卒業
おめでとう!





編集後記

地域文化学科 1年 澤

私は「学生図書委員おすすめの本」を担当しました。本を読むことは好きで多く読んできた分、おすすめ本として1冊のみを紹介することは悩みました。テーマが「新しい舞台に立つ人に読んでほしい本」ということで、私も今回を機にもう1度読んでみようかなと思います。図書館新聞は各担当の方や他の活動担当者、4年生の方、司書さんなどとの連携があって出来上がったものなので、ぜひ多くの人に手に取っていただきたいです。

地域文化学科 1年 丸山

私は今回、表紙絵を担当させていただきました。図書委員の様々な活動内容にいつもわくわくしていた気持ちを表現したつもりです。表紙が気になって図書館新聞を手にとったという人がいてくれたら嬉しいなと思います！

地域文化学科 1年 和田

今回初めて図書館新聞の制作に携わらせていただきました。おすすめ本を紹介するにあたり、昨年読んだ本をあらためて振りかえってみると年々読書量が減っていることに気がされました。この機会に、また読書を習慣づけようかと思えます。

図書館新聞の制作はとても楽しかったです。このような機会をいただきありがとうございました

地域文化学科 2年 岩澤

初めて図書館新聞に携わらせていただきました。図書館新聞の作成に関わってくださった皆様、本当にありがとうございます。そして読んでくださった皆様もありがとうございます。楽しんで読んでくださっていたら何よりの幸せです。

おすすめ本紹介コーナーの原稿を書くにあたって今まで読んできた本を振り返ったら、読書をした記憶がずいぶんと前になっていると感じました。この機会にゆっくりと読書をする時間をとろうと思います。





地域文化学科 2 年 大賀

今年度の新聞に寄稿しました。図書委員の大賀です。主に図書館祭を担当させていただきました。図書館祭では担当のリーダーとして活動をしましたが、至らぬ点も多く迷惑をかけてしまう結果になってしまいました。しかしながら、担当委員の一人一人が率先して活動をしてくださり、結果的には図書館祭は成功に終わったと思っております。皆様本当にありがとうございました。改めて、職員、生徒、来館者の皆様、とてもお世話になりました。

地域文化学科 2 年 梶谷

昨年に引き続き、この図書館新聞制作に携わらせていただきました。図書委員になったことで本を紹介する機会は多くなったように感じますが、読み手に興味をもってもらえる文章を書くのはやはり難しいです。図書館新聞作成は自分が編集者になったような気分になって、楽しみながら作成することができました。

地域文化学科2年 新開

今回初めて図書館新聞の制作に携わらせていただきました。おすすめ本の紹介では、何を紹介しようか非常に悩みましたが、今まで読んできた本を読み返すきっかけになり、楽しかったです。テーマからは少し外れているかもしれませんが、懐かしさと温かさを感じる本ですので、ホラーファンタジーに少しでも興味がありましたら、ぜひ読んでみてください。

地域文化学科 2 年 松田

今回初めて新聞の制作を行いました。今年度の活動を振り返る中で感じたことは、昨年度よりも活発に委員会活動が出来たということです。その為、記事を書く際もしっかりと書くことが出来たのでとても良かったです。

新聞制作にあたり、おすすめ本執筆の際に感じたのは、自分の読んでいる本のジャンルが固まっているという事です。その為、様々な本を読んでみましたが、その際改めて本の魅力を知ることができ、とても良い体験でした。

地域文化学科 2 年 和田

今回は「新たな舞台で活躍する人におすすめしたい本」について紹介させていただきました。新天地で働く人に少し力を抜いてリラックスできるような本を選んだつもりです。読書には人を元気づけたり、応援してくれるような力があります。図書館を通して本の素晴らしい力をたくさんの人に知ってもらえるような図書館新聞が作れたらいいなと思います。

